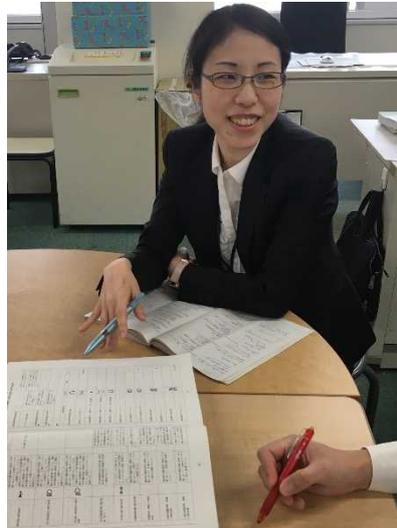




みなさん、こんにちは。

今日は、業務紹介第1弾として、機械・電気・情報分野のうち自動車関係の業務内容を、自動車局技術・環境政策課藤倉係長（入省7年目）より語ってもらいました！



藤倉係長（入省7年目）

1. 機械・電気・情報分野のうち自動車関係業務の国土省における役割を教えてください。

国土省では、航空機、船舶、自動車等、移動に使う乗り物について、主に安全性の観点で仕事をしています。そのうち、自動車関係では、公道を走るために必要な安全・環境上の基準の策定や1台1台の車両がこの基準を満たすことを確認する、認証や検査、また車両の状態を維持するための点検整備等についての制度を作っています。

地に足をついた制度を作る上では、自動車の動く仕組みや要素技術（例えば、センシング技術）を理解し、それをわかりやすくまとめて説明する力が必要であり、そこで機械・電気・情報の知識・感覚は大いに活躍します。

2. 現在の目玉施策を教えてください。

交通事故の削減や高齢者等の移動支援の確保を目指し、自動運転車の実用化を進めています。国土交通省自動車局では、自動運転車のための安全基準の策定や制度整備の他、実用化に向けた実証実験を進めています。

3. ご自身が担当されている業務内容について教えてください。

実証実験は自動運転車の開発・実用化に向けて非常に重要ですが、実証実験に使う車両の安全性確認を担当しています。公道で走らせる車両は、安全基準を満たしている必要がありますが、車両外の遠隔地でモニタを見ながら運転するシステムや、車両内で立ちながら、ロボコンで使うようなコントローラで運転するシステム等の新たな発想を基に作られた技術は、今までの車両基準と必ずしも考え方が一致していないものもあります。その新しい技術を使って安全に走らせるために必要な対策・措置について、検討をしています。



4. 苦労する点や、やりがいについて教えてください。

安全性を議論する前に、まずは新しい技術をしっかり理解する必要があります。その理解のもと、どの要素技術が今までの基準と違う考え方であって、今の基準はどのような理念のもとで作られたものであるのか、追加で必要な対策・措置として何をすべきなのか、ということを実案件ごとに丁寧に考えをまとめます。

例えば、遠隔地で見えるカメラ画像から車両周辺の状況をシームレスに理解できるのか、距離感をしっかり理解できるのか、また、通信遅延がある中、急な飛び出しがある場合に、車両をタイムリーに操縦できるのか、という課題に対して、1つ1つ対策・措置を考えています。

5. 国土交通省を目指す方へのメッセージをお願いします。

国土交通省には、技術系が活躍できるフィールドがたくさんあります。また、各地方に支部局を持っているのも魅力の1つです。

自動運転車の実証実験は全国各地で実施しています。その実施地域に応じて現場の方の力をお借りしながら車両安全性の確保、時には地域のご協力も仰いで、一つ一つ自動運転の実用化に向けた取り組みを進めています。

技術軸を貫きながら、みなさんに安心・安全とそして明るい未来をお届けする。このような誇りを持つ職員と、一緒に未来を創造しませんか？



実証実験中の自動運転車（左）と、自動運転車のロゴマーク（右）